肝属中部二期農業水利が着工

工事の無事安全を祈る

肝属中部二期農業水利事業の着工記念式典と安全祈願祭が2日、肝属郡高山町後田の現場で、国や県、関係自治体、施工業者代表ら約50人が出席して開かれた。

肝属中部地区は、肝属川右岸の鹿屋市、肝属郡高山・吾平町の1市2町にまたがる1810㌶の畑作農業地帯。同地帯はシラス台地で、これまでかんがい施設が未整備であったが、新規農業用水確保の必要性から、肝属川水系の荒瀬川にダムを建設。同地区内への導水ための主要幹線水路等の基盤整備は、農業の生産性の向上と経営の安定化を図る狙いがある。

全体の工期は平成元年から23年度。一期地区（9～22年度）で、ダム本体・導水路等の整備が行われ、二期地区（14～23年度）では主要幹線水路、幹線水路（総延長34㎞）などを整備する。今回二期の水利事業は幹線水路等34㌔のうち、2・3㌔の4区間。事業費は5億9000万円。施工業者は㈱渡辺組、㈱植村組、あすなろ建設㈱九州支店、不動建設㈱九州支店。

玉串を捧げ工事の安全を祈願する渡辺紘三社長＝高山町の現場で

式典は、㈱渡辺組の現場で行われ、神事の後、肝属中部農業水利事業所の長谷部均所長、肝属中部地区畑地かんがい事業推進協議会会長代理の津曲兼弘高山町助役、鹿屋耕地事務所の上野幸一所長、施工者代表の渡辺組の渡辺紘三社長らが玉串を捧げ工事の安全を祈った。このあと、直会で津曲高山町助役が「肝属中部畑地かんがい事業は平成9年からダム本体工事を中心に行なわれ、現在20%の進捗率となっている。今回の水利事業の施行により安定した農業ができるようになる」という倉岡哲也会長のメッセージを代読。

長谷部所長は「ダム取り付け道路も今年中に完成し、来年3月にはダム本体工事に入る予定。また、残りの幹線水利事業など順次発注する予定」と述べ、上野鹿屋耕地事務所長が「一日も早い事業の完成に向け、安全で無事に工事が完了することを祈念する」と話した。

説明を受ける生徒ら＝瀬戸内町の現場で

大島工生の現場見学会

建設事業に興味・関心を

県建設業協会奄美支部

県建設業協会奄美支部（尾崎健一支部長）は5日、大島支庁土木課と同河川港湾課の協力を得て15年度高校生建設現場見学会を実施、県立大島工業高校建設工学科の1年生約40人が大島本島内の現場4カ所を見学した。

最初に訪れた大和村思勝の大和ダム工事現場（前田建設工業㈱・丸福建設㈱・㈱町田建設JV施工）では、県大島支庁土木課の竹之下幸伸技術補佐が「今日はいくつか奄美でこんなに大規模な建設が日々行われていることを肌で感じ学び取ってほしい」と挨拶。工事概要を聞いた後、生徒らは現場代理人から濁水処理施設やダム掘削使用機械、環境を守るための水路などについて詳しい説明を受けた。

続いて宇検村改築生勝工区を車から見学し、続いて一行は瀬戸内町の県営住宅（コーラルタウン船津）新築工事（1工区－㈱勇建設、2工区－㈱[illegible]）建築係の猿渡祐宏技術主査から工事概要説明を受けたあと現場内を見学、バリアフリー仕様のエレベーターやドア工事などを興味深そうに見ていた。

引率の寺島大輔教諭は「現場を見ることで興味や関心を持ってもらいたい。そのことが教科書による勉強にもプラスになるし、将来の進路選択にもつながると思う」と話していた。

午後からは住用村の赤房トンネル（西松建設㈱・㈱渡辺組・㈱中村建設JV施工）や同橋梁工事の現場を見学、生徒らは貴重な一日を過ごしていた。

生徒らは大島支庁土木課

建設業セミナー

地域完結型PFI提案

植田氏

鹿児島商工会議所

鹿児島商工会議所の15年度建設業セミナーは5日、鹿児島市のアイムビルで開き、わが国PFI研究の第一人者で日本PFI協会専務理事の植田和男氏が現状と課題について講演した。植田氏は、地域完結型のPFIを提案、地元企業主導で公募参加できるよう学習してほしいと述べた。

セミナーには鹿児島市内の建設業者、商社、金融機関等の代表ら約100人が参加。初めに鹿児島商議所建設部会長の菅健志氏が「民間工事が低調、公共事業も削減される中で、民間資金を導入して地域活性化につながる公共事業を行うPFIが本県でも、本格的に着手されようとしている。研修内容を熱心に聞き、理解を深めて頂きたい」と挨拶。

講師の植田氏はまず、PFIの先進地と言われる神奈川県で地元建設関連業者から「PFIはスーパーゼネコン、大手商社、大手金融機関のためのもので、協力会社として入っても厳しい単価を強いられるだけだ」という指摘に対し、「大手のみ、大手と地元とのJV、地元が代表で大手が下につく、地元だけで実施」というPFIの4つの類型をあげた。

その上で、PFIを地方で実現させるためには、地元企業がリーダーシップを発揮、住民のニーズを把握し、行政や議会を十分納得させるだけの事業提案を策定できるよう研修を重ねてほしいとアドバイス。いわゆる地域完結型が有効で、価格競争よりも内容で勝負できるPFIを目指してほしいと述べた。また、PFIには予定価格の公表が不可欠ともつけ加えた。

地元主導の公募参加が求められたセミナー＝鹿児島市のアイムビルで

森建設が今年も集団献血

冬場の血液不足の一助に

森建設㈱（森耕二社長）は5日、枕崎市の同社枕崎支店でグループ各社をはじめ、協力業者らが約90人参加した集団献血を実施した。冬場の医療現場で不足することが多い緊急用血液の不足解消に貢献するため、今年も善意の血液が提供された。

献血は、同社が50周年の事業を通じた地域貢献の一環として始めたもの。今回も同社グループ会社をはじめ、協力会社の社員らが多数参加した。

同日は、各社員らが次々と積極的に献血に訪れ、中には注射に不慣れな社員も見受けられた。献血に参加した森社長も「この集団献血で確保された全員の血液が、鹿児島県の地域貢献を含めた事業の一環として始めたもの。今回も同社グループ会社をはじめ、協力会社の社員らが多数参加した。

同日は、各社員らが次々と積極的に献血に訪れ、中には注射に不慣れな社員も見受けられた。献血に参加した森社長も「この集団献血で確保された全員の血液が、鹿児島県の[illegible]

善意の血液が提供された集団献血＝枕崎市の同社枕崎支店で

大隅砕石協同組合 忘年会

更なる共販体制維持を

大隅砕石協同組合（伊東計理事長）は4日、ゴルフ大会の後、来賓を招き鹿屋市のホテルこばやしで15年度忘年会を開き、お互いの労をねぎらうと共に完全共販体制と単価の維持を誓い合った。

忘年会の冒頭、伊東理事長が「新理事長として半年が過ぎ皆さんの協力に感謝しています。今後も更に共販を維持し、価格の見直しを訴えたい。今年も残り少ないですが安全操業を」と挨拶した後、米倉正之県建設業協会肝属支部理事も「原口支部長に代わりまして挨拶します。地方の公共事業が伸びなければ各方面に影響が出ます。お互いに手をたずさえて協力していきましょう」と述べ、村上富士雄大隅地区生コンクリート協同組合理事長の乾杯発声で宴が始まった。

このあと、同日行われたゴルフの成績発表や情報交換などで親睦を深め1年の労をねぎらった。最後に徳峰行夫㈱サンコー専務の一本締めで閉会した。

ゴルフの主な成績は次の通り。

優勝＝新村利夫（㈱ガイアテック）▽準優勝＝村上潤（カイコー㈱）3位＝橋口享児（㈱ガイアテック）

1年の労をねぎらった忘年会＝鹿屋市のホテルこばやしで